



第29回 全国連女性部総会 in 福島

話を聞いて笑う女性も涙する女性もみんな主役。

持続可能な社会を目指して農村女性の輪を広げ、憲法、家族農業を守ろう！

2月2・3日。震災後7年になる福島に県内より81名、全体で154名が集まり全国連女性部総会が開かれました。

初日、「事故後7年の福島でしかも80名以上の地元参加は歴代でも初めて、ジェンダー平等、世界の小農民と一緒に元気をもらって頑張ろう！持続可能な社会を目指して！」と久保田部長より開会宣言のあとと総会議案の討議と東京大学特任研究員佐川清隆氏の講演、「地球温暖化は本



「皆であつめた 3000 万署名」

橋本光子さん

「当初そんなに書いてくれる人はいないなどあきらめの気持ちもあった」と署名活動を振り返った。しかしやるしかない！と「だめもとで訪問者にくまなく声掛けをしたらたちまち満筆になり、ついついコピーしながら、増やしてしまった(笑)」と喜びを話した。また、若い人はラインで呼びかけてくれたりと世代を超えて新しい集め方も知り、驚きと喜びがあったことを発表しました。



「一人一人の力が集まればすごいパワーになる！」

野地友子さん

昨年11月の二本松市長選挙を振り返り、野地さんご自身をはじめ農村女性の活躍を紹介してくれました。「一人一人の力が集まればすごいパワーになることを確信した！農業と政治は結び付いている。今後市長も農民連に入ってもらうのを目標にしています。」と原発反対の首長誕生(二本松市長)に大きく貢献した体験談を語っていた。



「原発事故を忘れないでほしい」 佐々木智子さん

「福島で開催されたことで、7年前の事を改めて思い出した。コミュニティの全てを失った90歳の方、放射能による子どもの健康に心配する母親。事故の責任を取らない国や東電へ生業裁判の原告をもっと増やし、原告の苦悩を知らせていかなければならない。」



「農村の魅力をもっと伝えたい！」 菅野まゆみさん

経営する農家民宿とその体験について話してくれた菅野さん。「農業体験や沢ガニとり、ホテルの鑑賞など農村でしかできないことは山ほどある。現代の子どもたちにも、この貴重な体験を味わってほしい」と話した。「家にテレビは置いていません。家族と一緒にの食事では、お話もおかずになるんです。農家は自分で育てた食材で料理したものを提供できるし、景観も提供できる。農村女性は身近なところで活躍できる。私の一生の仕事になると思う」農村の魅力とご自身の活躍を話していただいた。「80歳になる義母がお手本。」そして「農家には定年が無い!!」と今後の活動にも意欲的です！

全国からは世界的にも女性の意見が大切になっている。ジェンダー平等も、家庭や地域から一歩踏みだすことが重要。税金の取り組み、酒米、次郎柿をブランド化などや、種子法の改悪に「種は買うものじゃなく守っていくもの。」「ネオニコチノイドからの脱却のためには相互理解が必要。」など紹介しきれないほどの発言がありました。

あらためて農村での女性の役割はとて大きい。女性部などのネットワーク作りが重要。そして、原発事故と Fukushimaのことを忘れてはいけないことなどが確認されました。

そして、新任の沖津部長より「元気に明るく仲間を増やしましょう!!来年も元気に会いましょう!!」—閉幕—

「全国のいいものミニ物産展」は今年も大好評!!

「原発に対する向き合い方が足りなかった… 3.11の衝撃」 渡部よしのさん

もともと原発には反対だったが会津在住の私は原発事故にしっかり向き合えていなかったのではと反省している。飯館村の知人は「俺が何十年も作ってきた『土』全部はがされて、あの袋に入れられてしまった。」と悲痛な心の内を明かす。津島の知人の田んぼが有ったことさえわからない農地の変容ぶりを受け入れなければならないなど帰還困難区域の方の思いに一人の人間としてもっと向き合っていかなければと思った。皆さんにも身近なことと思て欲しい。



福島のおいしいお話を堪能



「ようこそ福島へ」福島の女性たちによるウェルカム「フラ」ダンス

全国農民連の未来は明るい!? インスタ映える自慢のポーズを披露!!

農民連フラッシュ flash

大きな目標を達成 —須賀川農民連新年会

須賀川農民連では1月13日に新年会を開催し約60名が参加しました。産直センターの事業では、各部会で目標を達成したことが報告され、今年はさらに高い目標を達成しようと提案されました。女性部は揃いの衣装でダンスを披露するなど大いに盛り上がりました。



県北農民連が役員研修会を開催

1月9日、24名の役員が参加し研修会を行いました。農民連の歩みを学習し、グループに分かれ「憲法前文」と「農民連行動綱領」の穴埋め問題に挑戦。すばらしい回答がたくさん出て盛り上がりました。役員・専従者の役割についてディスカッションも有り、新鮮な研修となりました。



青年部の活動、地元の農や食のことをリレーで紹介 若き農業者のつぶやきの一と せいねんぶ農人

平成30年度減反廃止になり、米価に不安がありますが、密苗の田植機を共同購入する事にしました。1反歩、8箱程度でコスト低減と省力化を図りたいと思います。興味のある方は、田植時期、生育状況など見学に来て下さい。 by樽川(須賀川)

